

## 最 終 試 験 の 結 果 の 要 旨

神奈川歯科大学大学院歯学研究科 歯科矯正学講座 武内美文 に  
対する最終試験は、主査 玉置勝司 教授、副査 木本克彦 教授、  
副査 荒川浩久 教授により、主論文ならびに関連事項につき口頭試問をもって行われ  
た。

その結果、合格と認めた。

主 査 教 授      玉 置   勝 司

副 査 教 授      木 本   克 彦

副 査 教 授      荒 川   浩 久

# 論文審査要旨

日本人女性の片頭痛患者における咬合状態の特徴

神奈川歯科大学大学院歯学研究科

歯科矯正学講座 武内 美文

(指導：河田 俊嗣 教授)

主査教授 玉置 勝司

副査教授 木本 克彦

副査教授 荒川 浩久

## 論文審査要旨

片頭痛は、世界保健機関（WHO）が制定した日常生活に支障をきたす疾患では 19 位に位置づけられており、患者は多額の医療費を必要としている。また、仕事を休むなどの経済的損失は非常に大きく、現代病の 1 つとして無視できない。一方、歯科治療により機能的・生理的な咬合を確立することで、頭痛が改善したという例も報告されている。このメカニズムを理解するために、頭痛や顎関節症との関係についてもいくつかの報告がある。しかしながら、片頭痛の頻度が多い成人女性のみを対象として咬合状態との関連性を研究した歯科領域からの報告はこれまで見当たらない。本論文は日本人の 20～40 代の女性を対象とし、片頭痛群と非片頭痛（コントロール）群間での咬合状態の特徴について調べた極めて新規性の高い臨床研究論文である。

被験者は神奈川歯科大学附属横浜研修センター・横浜クリニック頭痛外来で、診断を受けた片頭痛群 60 名（平均年齢 39.3 歳）とコントロール群 57 名（平均年齢 37.9 歳）である。すべての被験者に対し、頭痛問診票、基礎調査表、口腔内写真撮影、上下顎歯列の印象採得を行った。模型分析ではアングルの分類、オーバージェット、オーバーバイト、前歯歯冠内開口角、前歯正中線の偏位、欠損歯数、くさび状欠損歯数などをパラメータとし、片頭痛群とコントロール群間の比較を行った。

その結果、両グループ間において基礎調査項目（年齢、Body Mass Index、睡眠時間、平均体温）には有意差は認められなかった一方、模型分析では片頭痛群はコントロール群と比較し、オーバージェット量と前歯正中線の偏位が有意に大きく、さらにアングルⅠ級はコントロール群に有意に多く、片頭痛群ではアングルⅡ級の咬合関係を有する場合が有意（ $p < 0.05$ ）に多いことが確認された。

審査委員会では、頭痛の診断について、頭痛専門医師による的確な診断が行われたこと、基礎調査表から今回ピックアップされた項目として患者ホスト側の身体的、環境因子が適切に選択した目的、模型分析項目のアングルの分類の具体的な手法、片頭痛群と非片頭痛群におけるアングルⅠ級、Ⅱ級、Ⅲ級の頻度について、また今回使用された 2 群間の比較における検定法について質疑応答が行われた。

本審査委員会は、論文内容および関連事項に関して、口頭試問を行ったところ十分な回答が得られることを確認した。さらに片頭痛患者における歯科における咬合状態という極めて形態的な要素のみによる結果であるが、本研究の知見は今後の医科領域疾患に対する歯科治療の貢献が期待でき、歯科医学の発展につながる可能性を持つとの結論に至った。そこで、本審査委員会は申請者が博士（臨床歯学）の学位に十分に値するものと認めた。